

GIGAスクールの第一歩を 踏み出し始めた先生方へ

ネットモラル



鹿児島女子短期大学 児童教育学科
渡邊光浩 准教授

いよいよGIGAスクール環境の本格的な活用がスタートしました。もうすでに順調に進んでいる学校もあれば、初めての環境にとまどい、苦労されている学校もあるようです。そこで今回は、長年公立小学校で教員を務め、現在は鹿児島女子短期大学で教員養成にあたりつつGIGAスクールに関する研究を進め、GIGAスクール関連書籍に何冊も関わっている渡邊光浩准教授に、お話をうかがいました。

まずは校務で使ってみる 子供もすぐ慣れる

GIGAスクールの環境をどう使えばいいのか。先生方は今、不安と混乱の中にいると思います。授業で使う前に、まず先生自身が校務で使ってみましょう。たとえば簡単な打ち合わせや連絡事項の伝達を、クラウドで行ってみるのです。使ってみればクラウドの便利さが実感でき、授業での活用アイデアも出てくるはずです。

「子供はちゃんと操作できるのだろうか」との心配もあるでしょう。先生が思っている以上に、子供はすぐ慣れます。自分でどんどん試し、コツや使い方を学んでいきます。ですので、子供が自由に試行錯誤するのを許容しましょう。先生が指示した時や使い方に限定するのではなく、授業時間外も自由に使わせてみましょう。

「自由に使わせるとトラブルが起きるのでは？」との不安もありますよね。ですので、情報モラルをしっかり指導しましょう。ただし、細々とした禁止項目を設けるのではなく、大事な理念を伝えましょう。

まず「みんなが端末で行うことは、すべて先生に見えよ」と、知らせます。「見張っている」のではなく、「見守っている」というスタンスです。そして

「この端末は、学習で使うために国がお金をかけて整備してくれました。学習のためだったら、どんな使い方をしてもいいよ」と伝えましょう。「あれはだめ、これはだめ」と過剰に制限すると、子供た

ちのやる気や好奇心をそいでしまします。子供も「これは学習の役に立つ道具だ」と分かれば、学習のために使うようになります。

まずはキーボード入力の練習をしよう できることから授業を少しずつ変えよう

自由に使わせているうちに子供は端末やアプリの使い方に慣れていきますが、キーボード入力についてはしっかりと練習させましょう。特に最初のうちは、授業中に時間を取って練習をした方がよいです。キーボード入力に手間取ると、今後の学習に大きな支障を来します。最初にキーボード入力を練習しておけば、授業も円滑に進行できるようになります。練習させるだけでなく、そのスキルを活用する場面も与えましょう。練習するだけでは、子供もモチベーションを維持できません。一人一台なので、練習も活用も、たくさんの機会を与えられます。

ちなみに私の研究では、わずか三か月で、小学生は高校生の入力速度を上回りました。二〇一五年度の情報活用能力調査で、高校生の文字入力数は二四・七文字/分でしたが、一人一台で練習と活用を繰り返した小学生は、三か月でこれを超えたのです。

先生は、「子供に教えるためには、端末やクラウドのことを全部知っておかなければ」と気負いがちですが、全部知っておくのは無理です。子供と一緒に学ぶ「子供に教わる」くらいの気持ちでのもまみましょう。それに予測不可能な現代では、先生に教わっていないことでも、自分でできるようになる力も求められます。事実、先生に教わらなくても、子供は自分で学び、子供同士教え合うようになります。授業中に席を離れて友だちに教えるに行くこともあります。制止せず認めてあげましょう。

今まで授業であまり目立たなかった子供が、端末にいち早く習熟し、友だちに教える役を買って出て活躍するケースも多々見られます。子供が個性を発揮できる新たな機会が生まれます。今までとは異なる、まったく新しい授業を、いきな

り目指す必要はありません。できることを、少しずつ取り入れていきましょう。たとえば今まで紙のワークシートで行っていた活動を、クラウドに置き換えてみるのもいいでしょう。最初の一か月ぐらいは大変だと思います。でもこの一か月を乗り越えれば、先生も子供も慣れます。慣れたら、クラウドを使って協働的な学びを始めるとよいでしょう。



協働的な学びも、今までとは少し変わってきます。これまで全体の中で発表できるのは、グループのリーダーや発表が得意な子など、一部に偏ることがありました。しかしクラウドを使うことで、全員が意見を表明できます。みんなに自分の意見を見てもらって、コメントをもらえます。子供同士を結ぶ「協働」の線が、飛躍的に増えます。今まであまり接点なかった子供同士が友だちになる効果も生まれています。

こうした協働は端末で行うので、「端末に向かっている時間が長い」と印象を持つかも知れません。でも個人の活動に没頭しているように見えて、実はクラウド上で活発に交流しているのです。

協働的な学びは、学校だけでなくとまりません。端末を家に持ち帰れば、家で宿題をしながら子供同士教え合うようになります。学習のことに限らず、クラウド上で係や行事の打合せを行うようにもなります。

端末を家に持ち帰らせるのは、不安もあるでしょう。でも、文部科学省は持ち帰りを前提で情報端末の予算をつけた。休校になっても学びを止めないのも、GIGAスクールの目的の一つです。

持ち帰りの際は、まず「先生が見守っているよ」と伝えましょう。そして学校と同じく学習や学級のために使う前提で、自由に使えることがあってもいいでしょう。キーボード入力の練習をしたり、動画教材を探して勉強したりする子供もいます。

情報モラル指導の大切さが
ますます高まっています



情報モラルを指導しても、遠い出来事のように感じることがあったかもしれません。しかし自分の学級で問題が起きたら、子供たちは真剣に考えます。

トラブルも起きます。つい夜遅くまで使ってしまったり、学習に関係ない雑談をしたり。持ち帰りに限らず、学校でもトラブルは起きます。でもこれは情報モラルを指導する絶好のチャンスです。これまでは参考事例をもとに

日常的に端末、ネット、クラウドを使うようになるので、情報モラル指導の重要性はますます高まります。私の大学では、広教の「事例で学ぶ学校情報セキュリティ」などの動画教材を使って、学生たちに情報モラルやセキュリティを学ばせています。教育実習に行けば子供たちの個人情報扱いますし、教員になった時のためにも、しっかり学んでいます。先生方も新しい情報に触れましょう。テクノロジーは日々進化しています。想定していなかった事態が起きることもあります。GIGAスクール環境を安全かつ便利に活用するためにも、情報モラルやセキュリティをあらためて学び直しましょう。

GIGAスクール環境の本格的な活用のステップ

GIGA スクール環境をどう使えばいいのか。子供たちはちゃんと使えるだろうか。不安と混乱の中にいる先生方へ活用ステップのご紹介です。



STEP
3

「トラブルを指導のチャンスと捉えましょう。」

学級でトラブルが起きた時は、情報モラル教育をするチャンスです。

自分の学級で問題が起きたら、子供たちは真剣に考えます。

自分たちで考えて作ったルールは、守る意識も強くなります。

STEP
2

「子供たちが慣れたら、使い方を任せてみよう。」

子供たちはすぐ操作になれます。どんどん試し、コツや使い方を学んでいきます。

慣れたら、タイミングや使用方を限定せず、休み時間や持ち帰りを含め、**いつ・どんな使い方をするか**任せてみましょう。

STEP
1

「先生が端末に慣れる。」

簡単な連絡や打ち合わせ、情報共有をクラウドで行ってみましょう。

使ってみると**便利さが実感**でき、授業での活用アイデアが湧いてくるはず。

細々とした禁止事項を設けるのではなく、**大事な理念**を伝えましょう。

まずは**キーボード入力の練習**をしましょう！

たとえトラブルが起きても、対応できるように、**新しい情報**に触れましょう。



先生のための情報モラル・セキュリティ教材

「学校でトラブルがあったとき、
あると安心！ 情報モラル教材」

事例で学ぶ
Netモラル

学校で起こる情報モラルトラブルを事例アニメで疑似体験。

- ・アニメを見るだけでも効果的。
- ・付属の指導案で、一斉授業や参観日にすぐにご活用いただけます。
- ・新機能CBTで、情報モラルの実態把握がより簡単になりました！

「個別学習に最適！
1人でも学べる情報モラル教材」

事例で学ぶ
Netモラル
eラーニング

- ・情報モラルの個別学習に最適。家庭への持ち帰りにも対応できます。
- ・3分の事例アニメを視聴して、確認問題を受講するだけ。
- ・先生は受講履歴を把握できます！

「先生のための情報セキュリティ研修をeラーニングでご提案！」

事例で学ぶ
学校情報セキュリティ

- ・学校現場に特化した**情報セキュリティ研修**。
- ・集合研修が不要、個別で学べて**研修履歴を管理**できます！

広教ニューズレターは、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線で活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニューズレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <https://www.hirokyou.co.jp> E-mail info@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO